

## 第 42 期第 6 回理事会議事録

日 時：2023 年 1 月 24 日（火） 15 時 20 分～18 時 50 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳曉典，荒川知子，池上雅明，稲津將，榎本剛，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，三好建正，渡部雅浩，以上 17 名（理事数現在 20 名）

出席監事：鈴木靖，吉田聡

その他の出席者：勝山税，斎藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

### 議 題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入等について

新入会員 15，退会 97 を全会一致で承認した。2023 年 1 月 17 日現在，会員数 3,316 名で個人会員は 3,123 名。

##### 2) 第 42 期第 5 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

##### 3) 2023 年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて

各事業担当から提出された内容を取りまとめた 2023 年度事業計画案が示された。また，2021 年度実績、2022 年度の事業実施状況等を踏まえ，全体で若干の黒字額を見込む 2023 年度収支予算案が示され，検討の結果，2023 年度事業計画及び収支予算について，全会一致で承認した。

#### 2. 報告事項

##### 1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

・今年度中にあと 1 回開催予定。

・「天気」電子版へのアクセスビリティの改善が課題。

##### 2) 業務執行理事の報告

① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・掲載許可

##### 1) 申請者：竹見哲也

掲載元：”A role of environmental shear on the organization mode of quasi-stationary convective clusters during the warm season in Japan.” (Author: Takashi Unuma, Tetsuya Takemi) SOLA, Vol.12, pp.111-115. 2016. <https://doi.org/10.2151/sola.2016-025>

掲載図：Fig. 5. The frequency distribution of the percentage of the number of the elongated QSCCs to the total number of the QSCCs, which are evaluated over the (50-km)<sup>2</sup> area.

掲載先：”Numerical Weather Prediction: West Asian Perspectives” (Editor: Seon Ki Park) Springer Nature Switzerland AG (Gewerbstrasse 11, 6330 Cham, Switzerland).

2) 申請者：株式会社学究社 河端真一

掲載元：日本気象学会機関誌「天気」(2018年)第65巻第5号, 43-50ページ.

タイトル：気象談話室「関東大震災と東京空襲の火災に伴う中央気象台の高温と強風」(藤部文昭著)

掲載図：第3図 関東大震災による東京市内主要部の焼失域

掲載先：進学塾 ena 「小6直前特訓」(九段中等コース適性検査2)

掲載箇所 大問2 [資料4]

実施日2023年1月29日

発行部数120部

教材料金880円

・後援名義等使用依頼受付

1) 名称：公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム 2022」

テーマ「新たな社会状況に貢献する原子力技術の期待と課題」

主催：日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会

期日：2023年1月26日(木)

会場：日本学術会議講堂(オンライン併用予定)

名義：後援

2) 名称：第28回計算工学講演会

主催：一般社団法人日本計算工学会

期日：2023年5月31日～6月2日

場所：つくば国際会議場(茨城県つくば市)

名義：協賛

3) 名称：第37回北方圏国際シンポジウム

—オホーツク海と流水—

主催：紋別市

期日：2023年2月19日～2月24日

場所：紋別市文化会館・紋別市立博物館・紋別市民会館等

名義：後援

4) 名称：第51回可視化情報シンポジウム

主催：一般社団法人可視化情報学会

期日：2023年8月8日～8月10日

場所：グランドパーク小樽(北海道小樽市)

名義：協賛

- 5) 名称：第8回理論応用力学シンポジウムー力学の深化に向けてー  
主催：日本学術会議 機械工学委員会会合・総合工学委員会・土木工学・建築学  
委員会合同 理論応用力学分科会  
期日 2023年3月10日  
場所：日本学術会議講堂、会議室 6-A（1）（ハイブリッド開催）  
名義：共催
- 6) 名称：オンラインシンポジウム TRC スペシャル 2～台風研究は新たなステージへ  
主催：横浜国立大学先端科学高等研究院台風科学技術研究センター  
期日：2023年3月4日  
場所：YouTube ライブ・ツイキャス  
名義：後援
- 7) 名称：第11回中部ライフガード TEC2023～防災・減災・危機管理展～  
主催：名古屋国際見本市委員会、(公財)名古屋産業振興公社  
期日：2023年12月6日～7日  
場所：ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）  
名義：協賛

・寄附者リスト（2022.11.21～2023.1.23）

なし

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年11、12月分の収支及び現預金検査報告
- ・流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・2023年度総会参加について  
天気に掲載し、5/19に総会を実施する。
- ・研究連絡会の活動報告、活動計画について  
オゾン研究会は2年連続で報告がないため、このままでは気象学会の連絡会からなくなる。確認して対処する。
- ・2022年度秋季大会会計報告
- ・CPD運営委員会委員について  
予報士会から依頼のあった3名をCPD運営委員会委員として選出した。

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年度春季大会の準備状況 イベントペイのカード決済が可能になる予定。
- ・2023年度秋季大会の準備状況 会期10月23～26日、仙台国際センター
- ・受賞記念講演動画を会員サイトに掲載する方法を検討中
- ・大会アンケートの結果

天気編集・・・以下の内容が報告された。

・ Vol. 69 No. 12, Vol. 70 No. 1, 2 (2022 年 12 月, 2023 年 1, 2 月) の掲載記事と,  
Vol. 70 No. 3, 4 (2023 年 3, 4 月) の予定記事.

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された.

・ Vol. 101 No. 1 (2023 年 2 月) の掲載論文と, Vol. 101 No. 2 (2023 年 4 月) の掲載  
予定論文. 審査中の論文リスト.

・ 投稿数がかかなり減っている. 投稿をお願いしたい.

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された.

・ 論文の投稿・公開状況

・ 2022 年 11~12 月の掲載論文: 3 編

表彰関連・・・以下の内容が報告された.

・ 「日本気象学会賞」「岸保・立平賞」「正野賞」の推薦について, 各賞の候補者推薦  
委員会より候補者が提示され, 推薦理由について確認を行った.

・ 部外表彰等

文部科学大臣表彰: 1 名の推薦を実施済. 結果待ち.

日本学術振興会賞: 2 名の推薦を実施済. 不採択.

JpGU 西田賞: 個人推薦が行われたという情報があり.

2022 年度「第 43 回猿橋賞」: 適任の候補者なし.

第 44 回 (令和 4 年度) 沖縄研究奨励賞: 適任の候補者なし.

・ 名誉会員

明文化された規定が無かったため, 前期で推薦の基準を作った.

最近は大学研究所などで, 定年後も政府委員会等で活躍される団塊の世代で活躍  
された方が多い. 気象学会の存在感を高める上でも積極的に推薦していく.

学術・・・以下の内容が報告された.

・ 日本学術会議における「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研  
究戦略」の公募について下記の提案を確認した.

A 「有人・無人航空機による気候・地球システム科学研究の推進」

B 「地球型惑星のデジタルツイン」

C 「衛星全球地球観測による気候・地球システム科学研究の推進」

D 「水素社会に対応するゼロエミッション航空機の研究開発」

・ 「日本の気象学の現状と展望」の更新について, 執筆担当者を検討.

・ 放射能汚染に関する対策部会について

教育と普及・・・以下の内容が報告された.

・ 気象教育セミナー 1 月 8 日 (日) みなと科学館で実施. 参加者 29 名. テキスト代  
として補助金申請.

・ 気象サイエンスカフェ 2 月 26 日 (日) みなと科学館+オンライン、講師: 平田英  
隆 (立正大学).

・ ジュニアセッション. 5 月 16 日~17 日 16:00-18:00

・ 女子中高生夏の学校 (JpGU への投稿) 参加の方向で進める.

・気象学会春季大会の専門分科会「気候変動に関する教育・知識普及の現状と問題点」を開催する。募集を開始。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

・今年の仙台の秋季大会で小倉レクチャの準備を進めている。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

・12月9日に女性会員の集いオンラインを開催

・「自然科学系の協力学術団体における男女共同参画の推進状況に関するアンケート」に対応

・保育支援：保育施設情報など学会員へ限定公開する計画

・男女共同参画学協会連絡会関連

#### 4) 理事長報告

・内閣府の「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について、日本学術会議から再考を求める声明が発出された。

・気象学会として意思を示す場合は臨時の理事会を開催する。

#### 5) その他

##### 1. 有識者会議の開催について

詳細は次回理事会で検討する。

##### 2. 日本気象学会の運営全般に関しコンサルタント会社を活用することについて

第4回理事会において、「学会改革に関する意思決定方法について」コンサル業者を活用することを議論した結果、委託内容の仕様書案を作成し、業者に見積もりを取る事となった。見積もりは3社から回答があり、議論の結果、学会運営改善のためにコンサルタント会社を活用することを全会一致で承認した。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023年3月22日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡